

2025(令和7)年度 学校経営について

ブラッセル日本人学校補習校
校長 中川 健志

【教育課程】

授業日

	前期	後期	年間計
授業日	23	17	40

授業時数(1時限=45分)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語	114	114	114	76	76	76	76	76	76
算数数学	38	38	38	76	76	76	76	76	76
計	152	152	152	152	152	152	152	152	152

【時数には入らない授業や活動等】

- ・補習校漢字検定、その他の課外授業
- ・日本文化にふれる活動：「鯉のぼり」「七夕飾り」「日本の正月デー（正月遊びと書初め会）」、PTA スポーツデー（6月14日）、PTA 餅つき会（1月17日）
- ・朝の読み聞かせ（5月24日、11月28日の2回）中学部3年が担当
- ・異学年交流（小中学部の子供たち同士の『共育』：遊びや読み聞かせ等）
- ・職員研修会
- ・代行職員や相談員兼支援員等との連携

【学校教育目標】

- 1 学習指導要領に準拠した国語及び算数・数学の基礎学力を培う。
- 2 学校生活を通して適切な日本語を身につける。
- 3 日本の学校文化を体験し、日本人としての心や考え方に触れ、国際性豊かな人間性を育む。

→ 学習だけを教える塾や語学学校とは違い、補習校では学習しながら日本文化や日本的な考え方を学ぶことができる場である。だからこそ「学級経営」の視点も大切である。

【学校運営方針】

- 1 どの子どもも目的意識をもち、来るのが楽しみで充実感がもてる補習校づくり
- 2 補習校における教師としての役割を認識し、研修・研鑽に励む職員集団
- 3 保護者との連携を密にし、協力や信頼を得た教育活動

→ 「なぜ補習校に通うのか」「ここで何を学び何ができるようになるのか」といった目的や意味を子どもたちだけでなく、保護者にも持ってもらう必要がある。さらに我々教師集団は、「もっと学びたい」といった子や親の思いにしっかり答えていく必要がある。そのために本年度は・・・

- ①補習校に来る意識を高めるため、中学部には成績（テストで30点に満たなかったもの）によって管理職との面談を実施する。
- ②中学部にあがる際に自分の目的を再確認させるため管理職面談を実施する。（11月末）
- ③学力格差や個人差等に対応するためにも、担任一人では指導が難しい場合できるだけ気軽にサポートに入ることができるような協力体制をつくる。
- ④「どのように目的をもたせていけばいいのかよくわからない」「宿題にどう取り組ませていけばいいのか悩んでいる」といった保護者の思いに対応するために、月に2回、教育相談日を設定する。

【令和7年度の重点事項】

「わかった」「できた」「来てよかった」の笑顔あふれる補習校
～みんなが「笑顔いっぱい夢いっぱい」になれる学校を目指して～

- 1 補習校に来る目的や意義を明確に・・・家庭との協力体制の強化（「共育」の推進）
常に目的をもたせて取り組ませるような指導の工夫
- 2 支援員配置による個別支援の充実・・・様々な子どもたちに対応できるよう、学級や学年の枠を超えた取組
の工夫や学習支援員、代行講師等と協力した効果的な指導の工夫
- 3 ICTの効果的な活用・・・デジタル教科書等のICTを活用した授業の実践

1 補習校に来る目的や意義を明確に

- 家庭との「共育」体制を強化し、常に補習校に来る意義や目的について各家庭で話し合ってもらい
ておく。
- 学校でも「今日はこのようなことができるようになってよかった」「今日はこれができるようになった」
等の振り返りを行うことで、子どもたちが充実感をもてるような指導の工夫を行う。
- 家庭学習の見直しと充実のお願いをし、特に家庭での日本語の会話や教科書の朗読を徹底してもら
う。
- 家庭でどのように取り組ませていけばいいのかわからない家庭には、積極的に相談員の活用を進め
る。

2 支援員配置による個別支援の充実

- 学年や学級の枠を超え、全員で補習校の子どもたちを育てていくという意識をもつ。
- 学年合同での授業や、個別支援員（相談員兼学習支援員や代講講師等）を効果的に活用した学習を進め
、すべての子どもが達成感・充実感を味わえるような授業の工夫に取り組む。
- 個に応じた支援を工夫し、理解が難しい子だけでなく逆に理解が高い子に対しても、充実感を感じるよ
うな指導の改善に取り組む。

3 ICTの効果的な活用

- 国語と算数・数学のデジタル教科書の活用や、電子黒板の効果的な指導法について教職員の研修を深め
ていく。
- 全日校との連携を意識し教材・教具の活用や研修、各学校行事等に取り組む。
- 学校からの通信は基本的にメールで行う等、ペーパーレス化の継続に取り組む。

【資料1】本年度の児童・生徒数及び学級数

(人)

児童生徒数	小学部						小計	中学部			小計	総計
	1	2	3	4	5	6		1	2	3		
現在籍数(R7,4)	24	34	31	28	39	29	185	20	15	22	57	242
学級数	2	2	2	1	2	2	11	1	1	1	3	14

※学級定員（補習校校則運用規定）・・・小1は1クラス20人～23人程度、
小2は1クラス25人～28人程度、小3以上は1クラス30人以内

【資料2】過去10年の児童生徒数の推移

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
小学部	188	218	215	237	236	238	229	217	205	193	186
中学部	48	47	44	47	49	52	42	45	51	52	57
合計	236	265	259	284	285	290	271	262	256	248	242